猪高の森自然観察だより　5 月号

開催日時：2023 年 5 月 28 日（日）
天候：曇り一時晴　気温：最低 8.9℃、最高 23.1℃（名古屋に於いて）
　テーマ：新緑のいろいろと緑の棚田
参加者構成：一般　13 名（内 NACS-J 指導員 2 名、小学生1名）
コース　：森の集会所　→　井堀下池　→　井堀の棚田　→　ハンノキ湿地　→　北口広場（こもれび池）　→　シダレザクラの里　→　森の集会所

5 月 29 日、異例の早さで梅雨入り宣言が出されました。昨年より 16 日、平年より 8 日早い梅雨入りとのことです。

この 5 月は、中旬に夏日を記録するなど気候の面で記録を残す結果となりました。

猪高の森でも、花々の咲き進みがいつもより早かったように思います。春の花々の最盛期は過ぎましたが、木々の花がまだまだ咲いていますし、虫たちも、盛んに活動を始めています。

棚田の田植えも終わり、田んぼの生き物たちの最盛期を迎えます。今年もカルガモ親子が 11 羽のひなと確認されています。

（画像は猪高の森以外で撮ったものを含んでいます。左上の画像はヨダンハエトリ。）

〇虫食いの葉っぱを探そう！裏返して観てみましょう！

この時期は、苦手な方々も見えるでしょうが、虫たちの活動は避けて通れないと思ってください。草や木の新しい葉に親たちが卵を産み、それが孵り、その幼虫たちを求めて小鳥たちが雛を育てるために、飛び回ります。

自然界のつながりの一つとしての大事な一員です。

「この葉にはこの虫が決まって居ることが多い」ということがあります。いわゆる「食樹・食草が決まっている」虫たちをいくつか紹介します。

サワフタギやクロミノニシゴリといったハイノキ科と言われる樹の仲間には、このイモムシが春につくことが多いです。非常にカラフルで美しいイモムシのひとつで、**シロシタホタルガ**の幼虫です。

毒毛はありませんが、体液が皮膚につかないように要注意です。痒くなることがあるそうです。

アニメ「となりのトトロ」に登場する“猫バス”に似ているので、「猫バスイモムシ」のあだ名もあります。

サルトリイバラやホトトギスなどのユリ科につくケムシです。(サルトリイバラは近年サルトリイバラ科になっています。)

冬に成虫で越冬する白い線の入った美しいチョウ：**ルリタテハ**の幼虫です。仰々しい姿をしていますが、毒はありません。

右は、アケビの葉につく**アケビコノハ**というガの仲間の幼虫です。眼のような形の模様（眼状紋と呼びます。）で、鳥たちなどの天敵を驚かす意味があると言われていますが、効果のほどは、いかがでしょうか。

これは、コブシにつく**コブシハバチ**の幼虫。大勢で葉を食い荒らすのでコブシを丸坊主にするときもあるそうです。

チョウやガの幼虫とハバチの幼虫との違いは、腹脚の数によって決まります。

東京環境工科専門学校のブログより

チョウやガの幼虫は左の図の腹脚が最大でも4対、ハバチの仲間は 5 対以上必ずあるそうです。

判断に困ったときは、ここを数えます。

ハバチの仲間はハチ類の中でも原始的な部類と考えられており、ほとんどが植物を食べ、毒針を持っていません。

良く知られている**アゲハ**(ナミアゲハ)の幼虫です。ミカンの仲間の樹につくので、ご家庭で果樹を育てている方にとっては、世話をしている樹を丸坊主にしてしまう困り者です。

ここでは、イヌザンショウの樹についていました。

驚かすと頭部からオレンジ色の臭いのキツイ臭角を出します。

〇足が８本あってもクモじゃないっ！

この時期、林を歩いていると足元に見受けられる**ザトウムシ**です。

足は８本ありますが、クモの仲間ではありません。

最大の違いは、体の構造にあります。クモは体が、頭胸部と腹部に分かれていますが、ザトウムシは分かれていません。全部繋がっています。

この仲間は世界で 6,600 以上の種類が知られ、最古の化石は約 4 億年前から知られているとのこと。多くは雑食性で、クモとはあまり近くない関係だそうです。

〇ニホンアカガエルがオタマジャクシからカエルに・・。

オタマジャクシだった**ニホンアカガエル**が陸に上がり始めていました。

カエルの仲間はオタマジャクシの頃は、動物質も植物質も食べる雑食性なのに、カエルの姿になると全くの動物食になります。体の中の仕組みがどう変化しているのでしょう？

小さくて元気、おまけに保護色なのでちょっと跳ねて落ち葉の中に紛れるとどこに行ったか分からなくなります。

○この正体は、何だと思いますか？

ゴミみたいなものを背負っている虫のようなものを見つけました。触ってみると足があって動きますので虫には違いありません。

調べてみると、４月号で紹介した「**イチモンジカメノコハムシ**」の幼虫でした。

自分の脱皮殻を背負ってカムフラージュをし、天敵の眼に触れないようにしているらしいとのことです。

○この他にも幼虫たちいろいろでした

ナナフシモドキの幼虫。枝と間違えそうです。

アワフキムシの幼虫が作った泡。中に隠れています。

カマキリの幼虫。小さいながらもハンターです。

○三種類のサンショウの仲間たち

イヌザンショウ

サンショウ

猪高の森には、サンショウの仲間が３種類あります。上の**イヌザンショウ**と**サンショウ**はよく似ていますが、棘の付き方がそれぞれの画像の右下にあるように違いますので、区別がつきます。

カラスザンショウ

香りも異なりますので、嗅いで見てください。

カラスザンショウは葉の形が細長いので、区別がつくでしょう。葉が大きく、高木になります。

どのサンショウも毒性はありませんので、若葉や実を食用にすることがあるとのことです。

ミカンの仲間になりますので 3 ページ目のアゲハチョウの仲間の食樹にあたります。

（棘の画像：葉と枝による樹木検索図鑑より）

〇虫こぶのいろいろ

虫こぶはいろいろの原因で生まれます。

① 昆虫　②菌類　③ダニ　④線虫　⑤細菌などが挙げられます。

最近では、全体をひっくるめて「ゴール」と呼ぶ言い方もあります。

その植物の実だと思っていたものがゴールだったりすることがありますので、思い込みは禁物です。

イヌツゲメタマフシ

実と思われがちです。形成者はイヌツゲタマバエ。中に幼虫がいます。

ツツジのもち病

カビの仲間の寄生によって生じる虫こぶ。症状がすすむと白い粉が吹いたようになります。

エノキハトガリタマフシ

葉や若枝に付く、虫こぶ。形成者は、エノキトガリタマバエ。これもまた、中に幼虫がいます。

草や樹を良く見てください。すると、変形していたり、膨らんでいたりする部分があります。まず、虫こぶを疑って見るとよいでしょう。

〇ドクダミは語る！

生薬の世界では「十薬」、センブリやゲンノショウコと並んで、三大薬草のひとつとされています。

真ん中の黄色いところが花の集まっているところで、周りの４枚の白いところは「苞（ほう）」と呼ばれている部分です。よく増えて臭いが独特だから嫌われがちだけど、昔から役に立っているんだよ。（ひとこと言いたかったらしいです。）

〇今年もカルガモ親子が見られました

11 羽のひなを連れた親子が昨年に続き確認されています。

巣の場所はわかりませんが、どうも、ここで巣作りをし、孵化を迎えていたようです。

親ガモは、ひな達に危険が及ばないように終始周りに注意を払っていますので、遠くから「そっと」見守ってあげてください。

引っ越ししてしまうこともあるので、出会えましたらラッキーです。

次回観察会は

６月２５日（日）森の集会所集合　　9：30～　　です。

☆ トピック　☆

5 月 21 日（日）に井堀の棚田で恒例の田植えが行われました。

総勢 100 人を超える一大イベントです。

薄く曇りの天候で、カンカン照りを避けられたのが何よりです。

保護者の方々も子どもたちも田んぼの土の暖かさ・優しさを十分楽しんだ一日となりました。

秋の稲刈りまで、草取りなどの世話をしていきます。

名東自然倶楽部の HP では毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

http://sizen.ciao.jp/　から是非ご覧になってください。